

会 議 等 結 果 報 告 書			
会議区分	会 議 ・ 打 合 せ ・ 協 議	文書番号	526
		決裁期日	令和 5 年 1 0 月 1 0 日
名 称	令和 5 年度第 2 回上富良野町農業振興審議会		
日 時	令和 5 年 1 0 月 4 日（水）10：00～11：10		
場 所	上富良野町役場 3 階 第 2 会議室		
出席者	井村会長、西木副会長、三好委員、林委員、矢野委員、杉本委員、工藤委員、水島委員、横山委員、松藤委員 以上 10 名、 農業振興課 課長、主幹、主査		
	<p>審議会開催に先立ち、選任された委員に町長より辞令書を交付した。町長挨拶のあと、会長・副会長選出について委員に諮り、会長に井村委員、副会長に西木委員を選任した。新会長の挨拶後、町長より第 9 次上富良野町農業振興計画について審議会へ諮問され、議事に入る。</p> <p>【審議等事項】</p> <p>(1) 第 9 次上富良野町農業振興計画（案）について</p> <p>農業振興課より、第 1 回にて確認した計画の体系について説明資料を基に再度確認と第 1 回から案の修正内容を説明した。</p> <p>○第 9 次上富良野町農業振興計画（案）について</p> <p>第 8 次計画では施策が 5 つあり、基本方針が 10 つ⇒施策の展開方向が 20 つ⇒取組内容が 90 項目あった。今後も新たな取組があれば増えていき、重複する取組や確認事項が増え続け煩雑化することが予測されることから、第 8 次計画の 5 つの基本目標を第 9 次計画では 3 つの「めざす姿」にまとめ、総合計画の農林業部門の 9 つの基本方針を第 9 次計画の「施策の体系」とすることで町の総合計画と農業振興計画を繋げ、令和 10 年度で本計画と同時期に総合計画が終了することから、次期計画に向けた成果と評価へと結び付くように作成した。また、施策の展開は 38 項目に大きく区分、整理したことで、前計画の 90 の項目が減少したように見えるが、施策の方針中の説明に記載されており、第 8 次計画で行った内容は継続事項及び検討を含め全て第 9 次計画へ反映されている。</p> <p>施策の展開の 38 項目の具体的な内容は、令和 6 年度以降に作成する実践プランへ記載することから、今後は実践プランの内容が増えると考えている。</p>		

<p>内容</p>	<p>実践プランは、計画に基づく施策の実効性を高めるために令和7年度以降に重点的に進める施策を年次的・具体的に示すことを目的とし、次期農業振興計画へ反映する。</p> <p>上富良野町の総合計画⇒農林業部門⇒農業振興計画⇒実践プランとして、より具体的なものにしていき、今回の農業振興計画を活用しやすい形とし、実践プランには、重点取組項目の抽出、各施策の展開、取組内容の詳細を掲載し、進捗の管理や内容の精査をしやすいようにする。</p> <p>今後の審議会の中でも、引続き作成予定の実践プランを踏まえ、各施策の意見なども整理、集約したい。</p> <p>前回の農業振興計画検討資料（素案）からの変更内容を確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P3 気候 平均気温・月計降水量（平成31年～令和4年の平均）（単年度から5年間の平均値とした） ・P4 経済連携の表（発行日記載） ・P15 1. 現状と課題について、一部文言追加（推計、コロナとウクライナ情勢） ・P16 3. 現状と課題の文言修正 ・P21 1-2 畜産の現状の修正（豚熱）を現状と課題へ移動 ・P21 1-3 土づくり・堆肥コントラクターの推進について記載 ・P22 1-3（5）経営安定所得対策の水活の「畑地化」について記載 ・P24 各種補助事業の活用による機械導入の推進にむけて（文言修正） ・P25 2-3 道の駅の検討→都市農村交流施設の検討 ・P30 38項目へ変更（36から2つ増加）3-1 農業・農村を担う人材の育成の（5）労働力不足の解消、（7）地域おこし協力隊の活用（新規）の2つを追加 ・P34 《用語解説》の追加 <p>引き続き、振興計画素案の内容について、精査し、更正等進めていく。</p> <p>施策の展開を進めるにあたり、第8次計画と同じく計画を補完する農業農村実践プランにより、詳細部分を検討から実施まで繋げていくことを目的に策定する。施策の区分が少ないことから実践プランの内容が多くなることが想定されるが、実践プランと一体とした活用を図ることから、計画をこの体系に整理したことを承諾頂きたい。</p> <p>今回は全体をまとめた形で説明文言を加えており、また強調する部分を加えた。今回は新しく農業DXといった生産から流通、行政、生活の全てを含めたデジタル化とこれまでのスマート農業を進化させた内容を載せている。</p> <p>〈質問・意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員：各項目について、8次では「～を図る」という形だが、9次では「～の展開」と頭出しのみでタイトルが簡潔過ぎると思う。 ・農業振興課：内容を記載しているが、表現については検討する。
-----------	--

内容	<p>〈質疑応答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員：今回の計画のどこの関連か不明であるが、町内を訪れる観光客が「かみふらの八景」など景勝地において、交差点や圃場入口に停車し、作業の障害が多く発生してきているが、今後の対策などはあるか。 ・農業振興課：コロナが春から5類となり、町としても多くの観光客を想定し、町集落協議会と協力し、立入禁止等の看板設置を進めている。しかし、今後も観光客の増加に伴い、様々な障害となるケースが想定されるため、適切な対処方法など必要な対策を進める必要があると考えている。 ・委員：観光、宿泊施設付近では観光客が近隣の畑まで入込む場合もあると聞いている。農業振興計画へもそれらの対策を考えると良い。 ・農業振興課：計画、実践プランの反映を検討する。 <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業振興課：新規内容の不足があり、追加として、現在「地域おこし協力隊」として3名が町の特産品生産支援として、フラワーランドで農作業を行ってもらっている。その後は上富良野で新規就農へと進めていければと思う。最大3年間で今後は特産物以外の農作物の知識も必要なことから、各種作物を生産されている皆様へ研修受入の依頼を進めていく予定である。 ・委員：地域おこし協力隊の作業支援、新規就農の参考として、新規就農の開始する作物としてはミニトマトが適していると考えますが、現状価格は下落しており、その原因の一つとして新規就農者の多くがミニトマトの生産を行っていることが挙げられる。また、農作業ヘルパーは全国各地から道内に来ており、中富良野町の協力隊は酪農ヘルパーを単独で実施している。是非、今後は地域おこし協力隊が定住する割合などの状況をお知らせして、協力隊員を毎年増員させるのであれば行政が新規就農や定住させる受入体制の確立に努めて欲しい。行政のみで解決しない課題も多いと考えられるため、JAヘルパーと協力隊を合わせた方法や協力農家を加えた取組、地域農家が一体となり、協力体制を取っている取組など、他の成功例など参考に新規就農してもらいたい。 ・農業振興課：現在、新規就農を進めている方もおり、安定経営を持続する水準までは様々な課題があり、大変であるということは認識している。現在地域おこし協力隊員は1年目で、新規就農者を目指している人を条件に採用しており、今後は支援作業と併せて農業技術の研修を進めていく予定。 ・委員：身近にも他地域から来た方もいるが色々な考えや意見をもって農業を営んでいる。また、町も人口が減っている。現在65歳の年齢層の農業経営者は10年後にはいなくなるので、少しでも地域おこしで若い力を呼びたい。 ・農業振興課：農地面積は残るため、人は減っても面積は変わらず、1農家当たりの耕作面積が増える見込みである。 ・委員：今後は耕作放棄地が増えることも想定される。 ・農業振興課：今までは「人・農地プラン」による中心的経営体が担い手として対応をされていたが、今後は「地域計画」に変更され、農地流動化対策について10年先までの計画を令和7年度末までに策定する。所有者の皆様にはご協力をお願いしたい。
----	--

内容

- ・委員：酪農ヘルパーについては、中規模小規模だと作業が多くあり大変である。台規模だと集中的な作業を行うが、上富良野の規模だと複数の作業を行う必要がある。上富良野の酪農家は個人でヘルパーを依頼している場合が多い。
- ・農業振興課：労働力不足については、継続した課題としているので、他事例も参考に実施可能な内容を検討していきたい。

2. その他

時期開催は11月上旬を予定し、農業振興計画（案）について再度内容を精査する。

11時20分 閉会とする。

